



アルメニアからみたアララト火山の切手

P. Q.

ソ連邦のアルメニア共和国はコーカサス山脈の南 外コーカサスにあって トルコ・イランと国境を接し 葡萄酒と美人の国 長寿者の多いことで知られている。この国からトルコとの国境を越えた35マイル南にあるアララト火山(Ararat)が余程美しく見えるのか アルメニアを主題にした切手には この火山を画くのが多い。

アララト火山はトルコのアナトリア地方にあって アルメニアからみて右手の大きく高い円錐形のが大アララト山(海拔約5,165m)で雪線が海拔約4,300mにある。大アララトはノアの箱舟が漂着した話で有名であるがこの話は20世紀初めから「ノアの箱舟発見」の科学的粧いをこらした話として伝えられ つい最近には箱舟がアーツ衛星からの写真に映っていたと外電すらにぎわす始末である。左の円錐形は小アララト山(海拔約4,000m)でいずれもおもに玄武岩からなる成層火山である。

小アジアのこの地方は 白亜紀後期から古第三紀にかけて安山岩 粗面岩の火山活動が激しく 中新世から新第三紀末期は粗面岩 石英安山岩 流紋岩の活動がありそれから玄武岩の活動へと移って行った。

アララトは古期の山体は大部分が角閃石安山岩である

が 上部は玄武岩の溶岩流からなる。 山体の形成は ①溶岩流の形態が原型に近く 植生が及んでいなく ②よく保たれた火口があり ③溶岩流の末端と礫層との関係 ④付近にある新期の火山との形態との比較 などから 新第三紀末—更新世初期と考えられている。

この山の初登頂は1829年に Friedrich Parrot によって行なわれた。

25000: 1921年ポリシェビイキがアルメニアを制圧した時に発行された切手。 インフレを反映してか高額である。

20K: 1950年11月29日 アルメニア共和国30周年記念 3種のひとつで 葡萄摘みとアララトが画かれている。

40K: アルメニアの小説家アボビアン生誕150年記念。 背後にアララトが画かれている。 1956年2月26日発行。 小説家アボビアンについては不明。

4Kおよび12K: 1968年11月28日発行アルメニアの首府エレバン2750年記念。 紀元前9~6世紀にかけて今のトルコ共和国の東北からアルメニアにかけてを領土とした ウラルトゥ(Urartu)という国があった。 ウラルトゥはその最盛期にはアッシリアと争った強国だった。

エレバン市の周辺にはウラルトゥの遺跡が少なくない。 エレバンの名前自体も紀元前783年に現在のエレバン市のところに建設された ウラルトゥの要塞エレヴニから起ったもので 切手の発行された1968年はこれから算えて2750年というわけらしい。 アララトという名前もウラルトゥのヘブライ形である。

他に1947年 1957年 1967年発行の革命30 40 50周年各共和国を現わす切手のうち アルメニアの分には必ずアララトが画かれている。

